明石市レッドリストの生きもの

哺乳類

A：2 種
B：3 種

A コウベモグラ

草原や農耕地、森林にすんでいます。土の中にトンネルを掘って、ミミズや虫を食べます。掘った土が地面に盛り上がったものを「モグラ塚」といいます。

A カヤネズミ

日本で一番小さいネズミで、ため池の周りなどの背の高い草地にすんでいます。ススキやチガヤなどの草の葉を編んで丸い巣をつくり、その中で子育てをします。

B タヌキ

山の森から人里近くの雑木林、公園の林などにもすんでいます。果物やドングリ、虫、ミミズ、カエル、サワガニなど、いろいろなものを食べます。

B キツネ

里山の森林にくらし、草原や農耕地にも姿を見せます。ネズミや小鳥、虫などの動物のほか、果実も食べます。土の中に巣穴を掘って子育てをします。

B ニホンアナグマ

森林やササやぶにくらし、長いトンネルを掘って生活します。夜にミミズや虫、カエル、果物やドングリを探して歩きます。冬は巣穴で冬ごもりをします。

鳥類

A：11 種
B：21 種
要調査：17 種

生きものの説明の見方はこちら

A ヒクイナ

水田や湿地、池、河川にすんでいます。歩きながら虫やカエル、エビなどを探し、草の種も食べます。夕方から夜に、「キョッキョッキョッ…」と鳴きます。

A トモエガモ

冬を日本ですごす渡り鳥で、池や河川で見られます。オスの顔は、うす黄色と緑、黒の三色の巴（ともえ）模様。メスは全体に茶色っぽい色をしています。

A 生きものの名前

カテゴリー：
A、B、要（要調査）、今（今見られない）

見られる環境：
p1 参照

<写真・イラスト>

<見られる時期や行動、特徴など>

A ヨシゴイ

夏を日本ですごす渡り鳥。ヨシ原、湿地、水田などで子育てをします。草の中にいることが多い鳥です。じっと動かず待ちぶせして、魚やカエルを捕まえます。

A クロツラヘラサギ

冬または渡りの時期に見られるトキの仲間。黒い顔とヘラのようなくちばしが特徴です。海岸や池、水田などの浅い水の中で、エサをとったり休んだりします。

A シロチドリ

海岸や海に近い川にすんでいます。砂浜をチョコチョコと走っては小さな虫などを捕まえます。明石市の海岸では卵を産み、ヒナを育てる様子が見られます。

A タマシギ

オスが子育てをする鳥で、メスのほうが目立つ色をしています。水田や湿地でくらし、姿はあまり見られませんが、初夏の夜、メスは「コゥコゥ」と鳴きます。

A コアジサシ

夏を日本ですごす渡り鳥で、海や池の上を低く飛んで魚を捕まえます。海岸や河原、時には工事現場などの砂や石の多い広い場所に集まって、子育てをします。

A ミサゴ

海や大きな川、池の近くでくらすタカの仲間です。大きな体で水の中へ豪快に突っ込んで魚をとります。長い翼に白いお腹、目を横切る黒い線が特徴です。

A オオタカ

山地の森林から人里近くの林にくらす、カラスと同じくらいの大きさのタカの仲間です。林や草地で、鳥やウサギなどの動物を捕まえて食べます。

A アオバズク

夏を日本ですごし、里山やお寺などの森で子育てをするフクロウの仲間です。夜に活動し、昼間は休んでいることが多いです。「ホッ、ホッ」と鳴きます。

A カワセミ

川や池のそばでくらす小鳥です。背中は明るい青色、お腹はオレンジ色をしていて、その姿は「青い宝石」ともいわれます。水に飛びこんで魚を捕まえます。

B クイナ

背の高い草の生えた水辺にくらし、姿を見ることの少ない鳥です。大きな足で水辺を歩き回って、虫などの小さな動物や草の種などを食べます。

B コクガン

海にくらすガンの仲間です。海岸の近くで海藻を食べます。冬に日本にやってきますが、北海道や東北地方に多く、兵庫県で見つかることは珍しい鳥です。

B ツクシガモ

冬を日本ですごす渡り鳥で、海辺に多いカモの仲間ですが、明石市ではため池で見られます。白い体に黒い頭、ピンク色のくちばしが特徴です。

B ヒメウ

海にすむウの仲間で、青や緑に光る黒い体をしています。よく見られるカワウやウミウより小さく、顔が黒いのが特徴です。水に潜って魚などを食べます。

B チュウサギ

夏を日本ですごす渡り鳥で、水田や畑でカエルや虫などを食べます。同じ仲間のダイサギやコサギと比べると、水辺よりも農耕地や草地にいることが多いです。

B ヨタカ

夏を日本ですごす渡り鳥で、山地の森林や草地で、夜に飛びながら大きな口で虫を捕まえます。昼間は木の枝そっくりの色で、じっととまって休みます。

B オグロシギ

春と秋に日本に立ち寄る渡り鳥。水田や湿地、海岸などで虫やミミズなどを食べ、羽を休めます。春は頭から胸が赤茶色ですが、秋にはうすい色になります。

B アカアシシギ

春と秋、旅の途中に日本に立ち寄る渡り鳥です。海辺や湿地で虫やゴカイなどの動物を食べます。名前のとおり、赤い足とくちばしが特徴です。

B タカブシギ

春と秋に日本に立ち寄る渡り鳥。水田や湿地、川などで見られます。こげ茶色の背中にはタカの羽のような細かい斑点があり、「鷹斑」の名がつきました。

B キアシシギ

春と秋に日本に立ち寄る渡り鳥。海辺や川、水田などで見られます。胸の細かいしま模様と黄色い足が特徴で、シギの仲間の中では目にすることの多い鳥です。

B キョウジョシギ

春と秋に日本に立ち寄る渡り鳥で、海辺や川で見られます。茶色と黒のまだら模様の背中が京都の女性の着物にたとえられ、「京女」の名がつきました。

B オジロトウネン

春と秋に日本に立ち寄る渡り鳥で、冬を日本ですごすものもいます。浅い水辺や泥地で虫などを食べます。よく似たトウネンは足が黒色で、この種は黄緑色です。

B ハマシギ

春と秋に日本に立ち寄る渡り鳥。冬を日本ですごすものもいます。海辺などで虫やゴカイを食べます。群れていることが多く、大群が一斉に飛ぶ様子は壮観です。

B セイタカシギ

春と秋に日本に立ち寄る渡り鳥。黒と白の体に長く赤い足をもつ、スマートな鳥です。水田や湿地でくちばしを水にさしこみながら、虫などの食べ物を探します。

B ズグロカモメ

冬を日本ですごす渡り鳥で、海辺にいることの多いカモメの仲間。夏には頭が黒くなるので「頭黒」の名がありますが、日本にいる冬には白い頭をしています。

B ハチクマ

夏を日本ですごす渡り鳥で、山地の森林にすむタカの仲間です。小さな動物を食べますが、特に虫のハチが好きなことから、「ハチクマ」の名前がつきました。

B サシバ

夏を日本ですごす渡り鳥で、里山の森林で子育てをするタカの仲間です。山の近くの水田で、カエルやヘビなどを捕まえます。「ピックイー」と鳴きます。

B フクロウ

巣になる穴のある大きな木の生えた、山地の森林にくらしています。昼間は休んで夜に活動し、ネズミなどを捕まえます。「ゴロッホ、ホッホ」と鳴きます。

B ハヤブサ

山地や海岸、川、農耕地など開けた場所で見られます。飛んでいる鳥を高いところから急降下して捕まえます。山地や海岸の崖に巣を作って子育てをします。

B オオヨシキリ

夏を日本ですごす渡り鳥で、背の高い草の生える川や池の周りの草地などで見られます。初夏から夏、大きな声で「ギョギョシ、ギョギョシ」とよく鳴きます。

B キビタキ

夏を日本ですごす渡り鳥で、山地から人里の木のよく茂った森で見られます。オスは黒い羽に黄色の胸があざやかです。メスは目立たない色をしています。

要 ササゴイ

夏を日本ですごす渡り鳥。羽のササの葉模様から「ササゴイ」の名がつきました。川や池でじっと動かずねらいを定め、魚やカエルを捕まえます。

要 ヘラサギ

冬を日本ですごす渡り鳥で、トキの仲間です。海辺や湿地、池などで、ヘラのように先が広がったくちばしでエサをとったり、首を背中に乗せて休んだりします。

要 イカルチドリ

川の中の石の多い河原や中州などで見られる小鳥です。石によく似た模様の卵を産み、生まれたヒナも石のような色をしています。「ピョ」などと鳴きます。

要 オオハシシギ

春と秋に日本に立ち寄る渡り鳥で、冬を日本ですごすものもいます。池や水田、海岸などで、浅い水辺を歩いてくちばしを泥の中にさしこみ、エサを探します。

要 コアオアシシギ

春と秋に日本に立ち寄る渡り鳥で、冬を日本ですごすものもいます。長い足で水田や湿地、海辺などの浅い水辺を歩き回り、虫や貝などのエサを探します。

要 ソリハシシギ

春と秋に日本に立ち寄る渡り鳥で、海辺などで見られます。オレンジ色の足と、上にそったくちばしが特徴です。小走りに動き回り、特にカニをよく食べます。

要 オオアジサシ

日本の南の島で子育てをする鳥で、明石市で見られることはそれほど多くありません。くちばしが黄色く背中は灰色で、頭の黒い羽は長くボサボサしています。

要 アジサシ

春と秋の渡りの時期に、海の上や海辺で見られます。春には海の上を大群で飛んで、北へ向かいます。秋には海辺で羽を休め、南への長旅に備えます。

要 マダラウミスズメ

主に北日本で冬をすごす渡り鳥ですが、数が少なく、目にする機会は少ないです。明石の海にもあらわれることがあります。肩の羽が白いことが特徴です。

要 ウミスズメ

冬を日本ですごす渡り鳥で、北海道では夏をこすものもいます。海に潜って、魚やエビなどの動物を食べます。やや太めのうすいピンクのくちばしが特徴です。

要 カンムリウミスズメ

世界でも日本の周りの海にしかいない鳥です。夏に小さな島々で子育てをし、冬には岸から離れた海の上ですごします。うすい水色のくちばしをしています。

要 ツミ

山地の森林から街の公園の林などでも見られる、ハトより小さなタカの仲間です。小鳥や虫を捕まえて食べます。「キィーキッキッキッ」などと鳴きます。

要 オオコノハズク

山地の森林にくらすフクロウの仲間です。体は木のような模様をしていて、頭に耳のような羽（羽角）があります。夜、ネズミなどの小さな動物を狩ります。

要 コミミズク

冬を日本ですごす渡り鳥で、河川敷や農耕地などの草地で見られるフクロウの仲間です。杭などにとまってねらいを定め、ネズミなどを捕まえます。

要 サンコウチョウ

夏を日本ですごす渡り鳥で、スギやヒノキのある林を好みます。オスの長い尾と、くちばしと目の回りのブルーが特徴。「ツキヒホシ、ホイホイホイ」と鳴きます。

要 オオルリ

夏を日本ですごす渡り鳥で、山地の森林にくらしますが、渡りの時期には公園の林などでも見られます。オスは頭と背中が青く、メスはうす茶色をしています。

要 セグロセキレイ

川の上流から中流で見られる、白と黒のスマートな小鳥です。長い尾を振りながら地面を歩き、虫を捕まえます。似た仲間に顔の白いハクセキレイがいます。

明石いきものコラム

明石の鳥たち

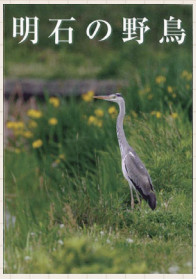
海に面し、東西に長くのびる明石市。どんな場所にどんな鳥がいるでしょうか。

日本有数の数を誇るため池には、豊富な水草が育ち、たくさんのサギ類や、冬鳥のカモ類などの水辺の鳥が、エサを食べたり休んだりする場所になっています。春と秋の渡りの季節には、遠くからやってくるシギ・チドリの仲間が羽を休める、渡りの中継地にもなります。

潮の流れの速い明石海峡には魚が多く、カモメなどの海鳥がエサを求めて集まります。海岸の砂浜では、シロチドリが卵を温め、やがて小さなヒナが生まれます。

大きな森の少ない明石市では、森にくらす渡り鳥が明石公園や金ケ崎公園に集まり、春と秋にはいろいろな種類の鳥を見ることができます。旅の鳥たちにとって、都市の中の公園の緑はオアシスに見えるかもしれませんね。

明石の鳥たちについては、明石市立文化博物館の『明石の野鳥』に詳しく書かれています。明石の自然と鳥たちのかかわりがよくわかります。ぜひ読んでみてください。

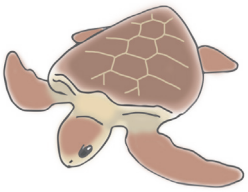


爬虫類

A：2種
B：2種

A アカウミガメ

世界の暖かい海に広くすんでいます。このうち日本で卵を産む集団は、メキシコまで泳いでいくことがわかっています。明石市の砂浜でも産卵記録があります。



A ニホンイシガメ

川の上流や中流、山のふもとの池にくらしています。冬は水の中や落ち葉の下で冬眠します。こうらの色は黄色っぽい茶色で、後ろの縁がギザギザしています。

B ニホントカゲ

日当たりのよい草地や石の多い場所を好みます。冬は土の中や石垣の間で冬眠します。虫やミミズなどを食べ、敵にあうと尾を切って逃げることがあります。

B ヒバカリ

農耕地の周辺にいて、特に水辺を好みます。泳ぐのが上手で、カエルやミミズなどを食べます。首の後ろにななめにうす黄色の模様が入るのが特徴です。

両生類

A：4種
B：1種

A セトウチサンショウウオ

雑木林にすむ小さなサンショウウオです。全身が茶色っぽい色をしています。冬から春、浅い水の中に、透明な卵のうに包まれた卵を産みます。

A ニホンアカガエル

水田の周りの草地や池のそばの森林にすんでいて、クモや虫を食べます。冬に卵を産むと、もう一度冬眠して、暖かくなると動きはじめる習性があります。

A ナゴヤダルマガエル

水田にくらす、トノサマガエルによく似たカエルです。虫やクモなどを食べます。水田が減ったり、コンクリートで整備されたりしたため、数が減っています。

A ツチガエル

水田や池にすむ茶色っぽいカエルです。背中にイボがたくさんあり、「イボガエル」ともよばれます。オタマジャクシのまま冬をこす珍しいカエルです。

B トノサマガエル

水田や池にすみ、虫やクモなどを食べています。足が長く、動きの素早いカエルです。春になるとオスは田んぼでなわばりをつくり、夜に大きな声で鳴きます。